

まことに申し訳ありません、ここのうんこシモネタの、たぶんそうじゃないかなあ、と思われる裏話を公開します。小生(M.K.)が出席している中国語の勉強会にて、台湾の鄭雯老師が着任してそうそうに、台湾の政界の内輪話をして下さいました。蔡英文總統は英語の出来がひどく悪い(菜英文)、とみんなが話している。とか、T.Y. 会長の先祖は、茄子の夜市につながっている(那須の与一)。とか、そんな話ばかりを聞かされたので、それでは、小生(M.K.) からもとということで、(pt:) Merda のローマンス言語グループ内での活用を、鄭雯老師に披露しました。ポルトガル語の (pt:) Merda は英語の (en:) Shit のことです。日本語では、(jp:) うんこのことです。ブラジル系のルーム・メートのいっぱいの中に紛れて生活していたことがあるので、最初に(pt:) Merda が頭に入ってきました。次に、TuneFind 同僚の Teresa Level と Los Angeles 市内中心地区近くに在住する Salvadoreanian (中米サルバドルから移住したアメリカ人) が、なにかの折に、(jp:) よく見えるだ、(jp:) 見えるだ、と騒いでおりました。これはスペイン語系日本語のうんこのこと、(es:) Mierda みえるだ、です。さて、3番目は、Montréal の Coeur de pirate のフランス語のインタビューを聞きおきますと、あっと思うときに、(fr:) Merde が出てきます。これで、うんこのローマンス言語グループ内での活用形が見通せました。(fr:) Merde -> (pt:) Merda -> (es:) Mierda、ああよく、見えるだ (es:) Mierda、見えるだ (es:) Mierda、という風に活用するわけです。

同じグループの単語(語彙)は、一つにまとめて覚えてしまうというのが、言語学・金沢派の流儀ですので、一つを覚えれば、全部に使えてしまうわけです。

どうやらこのお話が、台湾・マレーシア系の中国語を話すお友達に広がってしまったようで、こんな感じの李姉妹との合同 YouTube video になってしまったようです。責任は、M.K. と台湾からの鄭(鄭)老師にあります。失礼いたしました。ただ、単語(語彙)をグループ系を意識しながら覚える方法を身につければ、一つ覚えて、一気に全部に通用しそうだ、そんな感触を感じてもらえたのではないのでしょうか? グループ系列を意識しながら勉強することはとても有効です。そうすれば苦勞なしに全部を見渡すのも (en:) Piece of Cake です(簡単に一口でたいらげてしまう)。